

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 9 月 24 日現在

機関番号：32526

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24659968

研究課題名(和文) シングル介護の危機回避に向けた支援プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of a support program for crisis avoidance of single care giver

研究代表者

川村 真由美 (Kawamura, Mayumi)

了徳寺大学・健康科学部・准教授

研究者番号：80622935

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：急増するシングル介護形態における、危機回避のターニングポイントとなる要因を、介護者へのインタビューやアンケートおよび厚労省調査結果や裁判判例等を基に分析し、DVDを中心とした危機回避プログラムを作成した。

分析の結果、主要因として「健康」「経済」「自立」「情報」、下位概念として「自己の存在価値感」「自己中心的価値観」「Sense Of Coherence」「介護負担感」、気分要因として「ショック」「イライラ」「絶望」「無力感」があり、これを基にDVDコンテンツの大枠を「まず始めにすること」「こんな時どうするの?」「たまには気分転換!」等に絞って作成した。今後その有効性の検証が求められる。

研究成果の概要(英文)：Single caregivers has increased in recent years.A crisis avoidance program centered on DVD has developed based on analyzing factors become turning points of single caregivers based on interviews with caregivers and questionnaires and Labor Ministry survey results and judicial precedents, etc.

As a result of the analysis that as a primary factor as "health" "Economy" "Independence" "Information", subordinate concepts as "Value of self-existence" "Value of self-centered" "Sense of coherence" "Caregiver burden", as mood factors as "Shock" "Frustrating" "Despair" "Helplessness". DVD developed based on such factors so which contents outline is "To do the first" "What should I do?" "Have recreation in a while!".Future verification of effectiveness of this program is required.

研究分野：家族看護

キーワード：家族看護 介護 危機回避 支援プログラム シングル コーピング 視聴覚教材

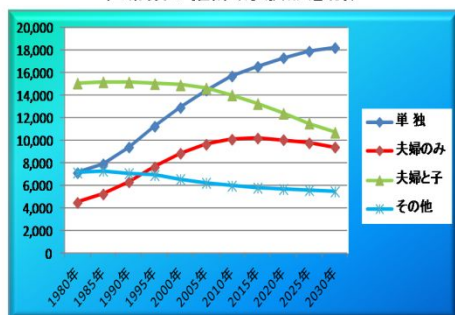
## 1. 研究開始当初の背景

老老介護と同様に問題化しつつある介護形態のひとつに「シングル介護」がある。成人期のある女優が、それまで介護をしてきた母を残して父の墓前で自殺をするという痛ましい事件から、社会の注目を集めた(おちとよこ,2010)。シングル介護は、シングルと呼ばれる独身者(未婚者、離婚した者、または死別した者)が、その者の親である高齢者を介護することをいい、NHK が放送した2008年10月10日の番組「特報首都圏」で使われ始めた言葉である。

シングル介護では、身近に、共に介護を担う家族がいなかったことや、介護者が多く成人期にあることで、ライフスタイルや仕事・経済面、社会・福祉制度面、精神面から実際の日常生活力の困難さまで、老老介護や家族介護とはまた違った問題や課題があると考えられる。

しかも、厚生労働省の統計からは、単身世帯が年々増加し【図1】

シングル介護は今後どう増大するか？  
世帯数の推計(家族形態別)



『国民生活基礎調査の概況』2005年作成機関：厚生労働省大臣官房統計情報部社会統計課  
【図1】

結婚年齢の高齢化、非婚率の上昇、更には急速な少子高齢化に伴う被介護者の急増や、一人っ子世帯の増加などの社会的背景が明らかになっている。一方、医療では、在院日数の短縮化、在宅ケアの促進などの国の政策が進められており、今、適切な対応がなされなければ、今後もシングル介護世帯は、解決できない課題を内包したまま、増加してゆくと考えられる。

しかし、現在のところ「シングル介護」を対象とした研究はまだ進んでいない。医学中央雑誌で「介護」をキーワードに検索すると、2009~2014年間で43550件であるが(2015年6月15日時点)、「シングル」では2件「単身者(世帯)」では16件、「独身者」では126件であった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、申請者の先行研究で得られた

危機回避要因を検証し、今後急増するおそれがあるシングル介護形態の、危機が危機回避かを分けるターニングポイントとなる要因を抽出し、危機回避にむけた支援プログラムを開発することである。

シングル介護は、自殺や介護殺人といった痛ましい事件が発端となって社会に認知され始めた。介護者が働き盛りのため、医療・福祉や介護・保険制度の恩恵を受けられず、社会的・心理的に追いつめられる状況がある。老老介護とはまた異なった深刻さを抱えており、研究開始当初、早急な対応が求められていた。

## 3. 研究の方法

### (1) 平成24年度

先行研究・コーピングプログラム調査:インターネット・図書・文献から情報収集を行った。

インタビュー:シングル介護者・シングル介護予備軍対象

a.直接対面インタビュー

b.間接インタビュー:NPO(公益社団法人認知症の人と家族の会等)訪問看護ステーション・在宅支援センター・病院、シングル介護経験者などに協力を要請。

・半構成的面接ガイドを参考としてインタビューを行った。

・研究者または研究協力者により、1回40分程度のインタビューとし、ICレコーダーで録音し、逐語録をコード化し、質的に分析を行った。

・分析には先行研究(川村ら,2011)に基づき、Aguilera, D.C. & Messick, J.M.の危機モデルの概念枠組を用いた。

\*モデルの〔バランス保持要因〕は、危機回避が危機かのターニングポイント要因を分析する際のひとつの根拠となる。

アンケート調査

a.直接インタビューが難しい場合はNPOや訪問看護ステーション・在宅支援センター・病院、シングル介護経験者のアンケートを送付し、直接体験事例またはご自身について記入して頂いた。

b.アンケートは郵送で配布・回収。

c.これまで有効であった情報を整理し、また量的解析法を用いて介護の促進要因・障害要因と危機回避行動との相関関係を分析した。

利用者側には、いつどんな情報が欲しかったか、或いは今必要か

提供者側には、ぜひ伝えたいことや支援システ

ムの有効活用法を中心に調査を行った。

## (2) 平成 25 年度以降

危機回避要因ごとにニードの高い情報のまとめ。

危機回避行動と関連の高い要因を抽出し、要因ごとに情報をまとめた。これにより、利用者が困難に直面した際、必要な情報をよりスムーズに収集できた。DVD コンテンツ用に Q&A 形式でまとめ、今後起こる可能性や必要な準備と対処法や相談先なども分かりやすく整理した。

### コーピング行動の集約

a. インタビューや実体験から有効なコーピング行動を抽出。

b. うつ傾向や発達段階のコーピングプログラムを参照にまとめ。

c. DVD コンテンツに組み入れる体験例として整理。

### 視聴覚教材として DVD を作成

a. DVD 作成... イントロダクションを含め最もニードの高い情報中心に情報をまとめた。

### b. コンテンツ作成

・危機回避に有効な情報をニードの高い要因ごとに Q&A 方式で編集した。

・集約したコーピング事例を実体験コーナーとして編集を行った。

### c. マスターDVD 作成

・コンテンツ・メニュー・ジャケット等のデザインを含め業者と検討した。

報告書の作成。

## 4. 研究成果

今後急増するシングル介護形態の、危機が危機回避かを分けるターニングポイントとなる要因をもとに DVD を中心とした危機回避に向けた支援プログラムを開発した。平成 1 年~25 年間の「介護」および「殺人または虐待」に関する裁判判例、厚生労働省「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律に基づく対応状況等に関する調査結果」、厚生省 2004 年「養護者による虐待発生の要因」、Aguilera, D.C. & Messick, J.M. の危機モデル、湯原 (2011)、佐藤 (2000) らの先行研究、および 2011 年 4~6 月、2012 年 4~6 月の 2 回、実際に介護を行っているシングル介護者 20 名および在宅介護支援者 (ケアマネジャー) 10 名への直接対面インタビューおよびアンケートを基に、危機回避が危機に至るかを分けるターニングポイントの要因を検討した。次にそ

れらの要因を統合したシングル介護者用の DVD を作成した。

結果：主要因として「健康」「経済」「自立」「情報」、下位概念として「自己の存在価値感」「自己中心的価値観」「SOC: Sense Of Coherence」、介護負担感、気分要因として「ショック」「イライラ」「絶望」「無力感」が抽出された。更にシングル介護では介護初期に危機状態に陥りやすいことや初期から介護サービスの効果的な利用を進める必要性なども明らかとなり、その要因として、情報不足や生活リズムの変調、生活拠点の変化、親子関係の変化や介護意識の希薄さなどがあがった。

これらの要因を基に、シングル介護者の試聴意欲を高めるために、危機回避に向けた DVD コンテンツの大枠を「まず始めにすること」「入院?! どうしよう!」「こんな時どうするの?」「たまには気分転換!」「Q&A 集」の 4 つに絞り、情報提供のタイミングを介護前~介護初期とした。

今回危機回避プログラムの中心となる DVD を作成することはできたが、有効性の検証に至らなかったため今後その有効性の検証が求められる。

## <引用文献>

1) おちとよこ (2010) シングル介護 - ひとりで頑張らない 50 の Q&A -, 日本放送出版協会, 東京 .

2) 「シングル介護」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%B3%E3%82%B0%E3%83%AB%E4%BB%8B%E8%AD%B7>, 2015/06/10 閲覧 .

3) 国立社会保障・人口問題研究所:

[http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou13\\_s/Nfs13doukou\\_s.pdf](http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou13_s/Nfs13doukou_s.pdf), 2015/06/10 閲覧 .

4) 内閣府 高齢者対策政策統括官 (共生社会政策担当) : <http://www8.cao.go.jp/kourei/>, 2011/08/1 閲覧 .

5) Aguilera, D.C. (1994) Crisis intervention The theory and methodology. 小松源助・荒川義子訳 (1997) 危機介入の理論と実際, 川島書店 .

6) 藤野成美, 山勢博彰 (2007) 危機理論 - 情動的中範囲理論 -, 月刊ナーシング, vol27(12), 80-193 .

7) 山藤章一郎 (2007) 「私の手は母を殺めるためにあったのか」と男は泣いた ニュースの現場「19 のストーリー」, 小学館 .

## 5. 主な発表論文等 計 0 件

## 6 . 研究組織

### ( 1 ) 研究代表者

川村 真由美 (KAWAMURA, Mayumi)  
研究者番号 : 80622935

### ( 2 ) 研究分担者

眞鍋 知子 (MANABE, Tomoko)  
了徳寺大学・健康科学部・看護学科・教授  
研究者番号 : 40573598

大迫 哲也 (OHSAKO, Tetuya)  
了徳寺大学・健康科学部・看護学科・教授  
研究者番号 : 30349170

横山 正江 (YOKOYAMA, Masae)  
了徳寺大学・健康科学部・看護学科・教授  
研究者番号 : 80707802

加治 美幸 (KAJI, Miyuki)  
了徳寺大学・健康科学部・看護学科・教授  
研究者番号 : 10633232

柴田 滋子 (SHIBATA, Shigeko)  
了徳寺大学・健康科学部・看護学科・教授  
研究者番号 : 90622077

### ( 3 ) 連携研究者

佐藤みつ子

### ( 4 ) 研究協力者

加藤浩美  
福島明美